

2学期も終盤を迎えました。冬休みが待ち遠しい時期です。今後も健康に過ごせるように規則正しい生活（早寝・早起き・朝ごはん）を心がけましょう。

2学期に行われた家庭教育学級のいくつかを紹介します。

成東中学校区教育講演会

11月5日（火）「グローバル社会における国際理解」～外国人生徒との関りを通して～

講師は、山武市教育委員会子ども教育課の西島サジーさん。現在山武市にいる外国籍児童・生徒を多く支援されている中での様々な課題についてお話いただきました。国際理解という観点からは、今後、お互いの文化を尊重し、学校の中で声を掛け合い共に成長出来るようになって欲しいということです。今後は、これからのグローバル社会に私達大人も、どう対応していくのか、考える場にもなりました。



おもしろアート 蓮沼小学校 11月1日（金）



バルサミコヤス氏による講座。今回は、クリスマスツリーのオーナメント作り。木でできた型に思い思いのデコレーションをしました。保護者の方たちも熱心に参加してくださり、素敵な飾りができました。



ヨガ教室

睦岡小学校 10月29日（火）
南郷小学校 11月8日（金）



睦岡小

講師はヨガインストラクターの小高公美世さん。普段、伸ばさない場所を深呼吸に合わせて無理なく伸ばしました。

ヨガの体験のない方もできる簡単なものから本格的なポーズまで、自分の体力に合わせて行うことができました。ヨガの合間にご自身が体験されたいいろいろなエピソードをお話してくださり、参加された保護者の方々も興味深く聞きました。リラクゼーションの時間の後、静かに起き上がると、心も体もリフレッシュしていました。



南郷小

「楽しい子育て全国キャンペーン」3行詩 優秀作品

- ♣ 同じように育てても同じようには育たない。子どもの数だけ楽しみがあり、子どもの数だけ夢がある。
（寶來典恵 鹿児島）
- ♣ あんたはあんたのままでいいんや、他人（ヒト）の言うこと気にするな。
母の言葉にすぐわれる。（中学2年生 塚越歩未 岐阜）
- ♣ ママのひざ わたしのこころの じゅうでんき （小学1年生 野口佳乃）



今回は、成東小の古山先生から、ご自身の子育てについて、寄稿していただきました。

我が家の子育て

成東小学校 教頭 古山 裕美子

我が家には、現在19歳と17歳になる娘がいます。主人とともにフルタイムで働く我が家の子育てにおいて、夫婦だけでは到底力及ばないところを、たくさんの方々に助けてもらいながら、なんとかこれまで過ごしてきました。そんな我が家の応援団への感謝の気持ちを込めて、これまでの子育てエピソードをいくつか紹介します。



【おばあちゃんの手料理】

二人の娘が、好き嫌いをせず、何でも食べられるように育ったのは、義母の手料理のお陰だと思います。同じ敷地に住む義理の父母には、特に娘たちが保育所や小学校に通う頃は、送迎や夕飯の世話、具合の悪いときには通院や看病と、とにかく世話になりました。平日は、夫婦ともに帰宅が遅いため、夕飯はいつもおばあちゃんの手料理でした。ひじきの煮物、豆腐のハンバーグ、かぼちゃの煮付けや牛乳寒天など、いろいろな食材を、どれもおいしく食べさせてもらいました。私も、新しい料理を習ったり、味付けを教わったりしました。お陰で、小あじを手でさばくこともできるようになりました。福島で生まれ育った私には、瓜漬け、あじのごま漬け、海草寒天、千葉のお雑煮など、どれも初めて知った料理で、義母に習った味です。こうした味は、祖母から私、そして子どもたちへ受け継ぐ、我が家の大切な伝統です。



【愛犬ペロ】

残念ながら、この夏、老衰で亡くなってしまったのですが、母屋で住んでいた愛犬ペロも、我が家の育児には欠かせない存在でした。生後2ヶ月

で我が家に来たペロ君は、偶然次女と同じ誕生日だったため、二人（娘とペロ）は意気投合するかと思っていたのですが、幼い頃は、一番のけんか仲間でした。どうやら、次女がいつもおいしそうにお菓子やご飯を食べている姿が、ペロ君にはうらやましかったようです。一緒に遊びたい娘と、なかなか素直に遊んでくれないペロ君とのやりとりは、微笑ましかったです。最近は、お互い大人になり、ようやく仲良く散歩することが増えました。そんなペロ君を撫でたり、一緒に遊んだり、餌をあげたり、散歩したりしながら、家族がみんな、疲れた気持ちをほぐしてもらっていたと思います。16歳まで生きたペロ君、私たち家族のためによく頑張ってくれました。ありがとう。

【福島のじいばあ】

私の両親は、福島県いわき市に住んでいます。東日本大震災の影響で、引っ越しを繰り返したため、この10年余りは苦労も多かったのですが、二人は、どんな時でもポジティブです。父は、ハワイアンを愛し、若い頃からハワイアンバンドを組んで、現在も活動しています。80歳を過ぎても、たくさんの人に出会い、挑戦し続ける人生を送っています。母は、孫たちに会えるのをいつも楽しみにしていて、帰省した時は、孫たちと卓球を楽しんだり、福島の郷土料理をご馳走してくれたり、孫との時間を楽しんでいます。遠方のため、時々しか会えないからこそ、帰省した時は二人からの愛情をたっぷり受けています。また、二人が前向きに生きる姿は、娘たちも私たち夫婦も活力をもらっています。

この他にも、我が家には、子育てを支えてくれているたくさんのサポーターたちがいます。これまで、楽しんで子育てができていたのは、このように支えてくださっている方々のお陰です。これからは、子育てと同時に介護にも関わる年代になると思います。その時は、孫から祖父母へ、感謝のバトンを繋いでいきたいと思います。

